

人との出会い、そして人生・・・・・・・・

農業を考えると、憧れは故藤本敏夫氏であった。出会いは、30年程前、営農技術員全体研修会に講師で招いたことがきっかけで、千葉県鴨川自然王国も訪ねた。彼の学生運動を彷彿させるアジ演説に圧倒されつつ、獄中での食事や農作業を通じて体得した農業への熱い思いと実践活動に共感したからである。講演会の後、スナックで『藤本大兄へ「自分一人からの出発」』と色紙をもらった。改めて、遺言である「農的幸福論」(家の光;加藤登紀子編)で、現代社会の矛盾や食と農に対する切実な思いなどを読み取ると、色紙の言葉とともに農的生活をもっと大切にしたいと思った。そして、人との出会いによって導かれ、人生を歩んでいる気がしている。
(常務理事 藤本人寿)

【地域開発部】

研究報告 長野県における支所協同活動の現状と課題

1月20日に開催された「協同活動フォーラム」(JA長野中央会主催・JA長野開発機構共催)において、標記テーマでの研究報告を行いました。この報告にあたっては、県内18JAの支所長さんに対してアンケート調査を行い、多数より回答を得ました。この場を借りて御礼申し上げます。

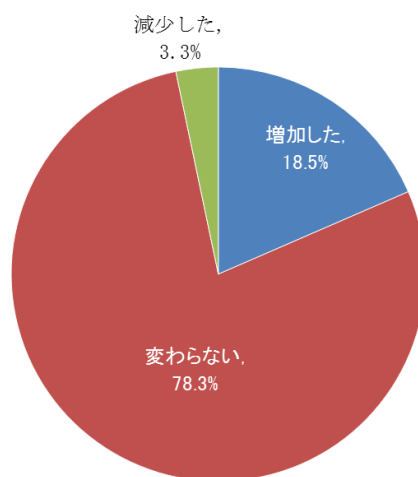
図に示されるように、長野県内の支所活動は、昨年と比べて「変わらない」の回答が最も多いものの、「増加した」が「減少した」を上回っており、活発になっている傾向にあると言えます。しかし、支所の協同活動を積極的に進めることに対しては、昨年よりも賛成である割合が低くなりました。その理由としては「人手が足りない」、「時間外や休日出勤を強いられる」などで、活動が増えたことを負担に感じている職員もいると考えられます。

しかし、こうした中でも、職員の動機づけが強いほど、活動に意欲的でありました。活動中のエピソードを書いてもらったところ、「組合員との関係が親密になった」、「年金友の会の会員が増えた」、「准組合員となり、家の光の購読申し込みがあった」、「組合員さんから相談されることが増えた」、「若い人や農業者以外とのつながりができ、訪問先が増えた」、「職員のモチベーションも高くなった」など多数の記述がありました。こうしたエピソードある支所ほど、職員の動機づけは強まる傾向があったため、活動の目標を明確にする必要があると提言しました。

今後とも当機構では、支所での協同活動のあり方について研究を深め、積極的に情報発信していきます。

なお、アンケートの結果概要については、JAグループ長野開発機構のHP (<http://www.janis.or.jp/kenren/ird/index.html>) をご参照ください。

Q. 昨年(2013年度)に比べて、支所での地域向け活動の数は変化しましたか？



(研究員 坂 知樹)

【人材銀行局】



新天地でも、活躍できます。

今回ご紹介するJAグリーン長野で金融を担当されている宮下恵子さんは（左写真、手前の方）、以前、東信地区某JAの金融部署に勤務されていました。結婚後、JAグリーン長野管内に在住した縁で、当人材銀行局の派遣職員として、JAグリーン長野信田支所の金融担当として活躍されております。宮下さんからは、「以前経験した仕事を、継続できたので、一安心でした。」とひと言、感想を頂きました。

人は誰も過去に培った豊かな職務経験を活かし、ふたたび社会貢献できることを望んでいます。地域開発機構は、こうした希望に応じて職場紹介できるように、県下JA人事担当部署等を中心に当人材銀行局への登録者の願いをしております。

『頑張ってます。派遣職員』

柳澤 千鶴子さん



昨年から中信会館管理事務所に勤務されています。

この頃の、マイブームは、家庭菜園での野菜づくり。

毎年、ナス・トマト・トウモロコシを始めとする新鮮野菜は、一度食べたら病みつきになるそうです。気分転換として各地の温泉に行かれリフレッシュされるそうです。数年前、愛犬エル（セントバーナード、大型犬としては長生き）を、13歳5か月で亡くされたそうです。一番の友達との別れでした。とポツリと言われました。エル君さぞかしかわいかったでしょうね。



～編集後記～

寒さが和らぐとともに花の便りが全国各地から届く季節となりました。

今年度は、昨年にも増してより一層、調査研究活動の幅を広げ、様々な情報と研究報告を全国・県下JAにお届けできるように努めてまいります。

皆様方からの調査研究に関するお問い合わせや人材銀行へのご相談をお待ちしております。 (Y)

<発行所>

一般社団法人 長野県農協地域開発機構

長野市大字南長野北石堂 1177 番地 3 JA 長野県ビル 11 階

TEL 026 (236) 3500 (代表) / FAX 026 (236) 3505